

平成29年度 第5回江別市行政評価外部評価委員会 会議録（要点筆記）

日 時：平成29年11月9日（木）10:00～11:15

場 所：江別市民会館 36号室

出席委員：井上宏子委員長、菅原涼子委員、武岡明子委員、小原克嘉委員
小野寺さゆみ委員（計5名）

欠席委員：千里政文副委員長、山下善隆委員（計2名）

事務局：企画政策部北川部長、福島次長

政策推進課中島参事、天明屋主査、山口主事

傍聴者：1名

会議概要

1 開会

2 議事

（1）平成29年度行政評価外部評価結果について

○井上委員長

平成29年度行政評価外部評価結果について、第4回委員会までに書面審査を実施した上で、ヒアリング照会と書面照会を実施し、その結果が資料1にまとめられている。

事務局から各委員へは事前に資料送付をしているため既にお目通しされていると思う。

これについて、事務局からご説明いただき、お気づきの点があれば確認をいただきたいと思う。

【事務局から議事（1）を説明】

資料1 平成29年度行政評価外部評価結果（P1～P6）

○井上委員長

資料1「平成29年度行政評価外部評価結果」6ページには自分の意見も出している。文言など訂正がある場合は後々整理をしたいと思う。

考え方については、3年間の総括を含めた形で少し整理をさせていただいた。

このことについて意見等があれば発言願う。

○武岡委員

資料1「平成29年度行政評価外部評価結果」は、今年度の外部評価の結果をまとめたものか、それとも3年間の外部評価のまとめなのか。

○井上委員長

今年度のまとめである。

3年間の外部評価の総括は全て終了した際に、委員に総括をしていただく。3年間の総括については、具体的なものより今後に向けてとなるため、委員会としての考えをまとめる形

を取りたい。

○武岡委員

今年度の委員会において、行政評価に関する研修のあり方を見直した方が良いのではないかという意見や、「成果指標」について具体的な項目を設定するという意見が出ていたが、このことについては3年間の総括で取り上げるのか。

○井上委員長

行政評価そのものをどのようにするべきかという研修になるならば、3年間の総括として出し、今年度評価した事業に絡む部分となると、今年度の結果として取り上げる。

どちらで取り上げると良いと思うか。

○武岡委員

3年間の総括で取り上げた方が良いのではないか。

○井上委員長

それでは、3年間の総括にて行政評価に対する研修のあり方について取り上げることとする。

また、「指標」についても平成27年度から指摘している部分であるため、全体の総括で「指標」に関しての全体の考え方を記載すると良いと思う。

今年度の結果は、「成果指標」について大きなくくりで記載しているが、具体的にということならば表現を変えても良い。または、文章として細かく記載するということでも良いと思う。

○武岡委員

「成果指標」として評価表に挙げられているものが「活動指標」だということを3年間指摘したが、「上位指標」と「下位指標」、あるいは「代替指標」というものがあることは今年度初めて知った。総合計画に「成果指標」が挙げられているが、これがあまり用いられていないこと、その代わりに「下位指標」や「代替指標」が独自に設定されているが、成果指標ではなく活動指標に近いこと、そして指標が最初に設定されると、その後は変更しないことになっていることが課題だと思った。

○井上委員長

3年間の総括では、もう一度「成果指標」について全体を見直すような記載をする必要がある。

菅原委員はPTAとしての立場で、記載内容について意見はあるか。

○菅原委員

委員会の中で何度も指摘されているとおり、事業としての最終目的はあると思うが、明確ではないものが多い。そして、十分に評価表に記載されておらず、読み取れない部分があった。

どのような最終目的があり、そのためにどのような手順を踏んでいるかという部分を明らかにし、伝わるように記載してほしい。

○井上委員長

「6. 平成29年度江別市行政評価外部評価結果」にて、「評価目的」、「評価対象」、「評価観点」、「期待効果」を記載するよう申し上げた。

丁寧で分かりやすい報告書にしたいため、気づきがあった場合は意見をいただきたい。

7ページからは、各事業の外部評価結果をまとめている。

【事務局から議事（1）を説明】

資料1 平成29年度行政評価外部評価結果（P7～P10）

○井上委員長

事務局から4事業について、説明をいただいた。

これは委員会の中で指摘したことに関してのまとめだが、「意見・提言」について4事業のうち、2事業が空欄である。

書面照会やヒアリングの内容については、指摘をしてきたが、今後委員会として、提言する必要はないだろうかと考えている。

例えば、「自治会活動等支援事業」に関しても「意見・提言」が空欄となっている。委員会としての「意見・提言」を考えていく必要があるのではないか。今後に向けての意見であっても良いと思う。

自治会活動に関わっている小原委員から、今後に向けて記載しておくべき意見はあるか。後ほどでも良いので意見をいただくと有り難い。

「指標設定の妥当性」は細かく審議してきたため、ここで付け加える項目ではないと思うが、「意見・提言」については、付け加えても構わないように思う。

各委員において、何かお気づきの点があれば発言いただきたい。

○小野寺委員

4事業だけではないが、結果の書き方について「市民協働推進事業」の「指標設定の妥当性」の評価欄が「なし」と記載されている。読み方によっては、「妥当性がない」と読み取れるように思う。

例えば、「提言がない」、「意見がない」などの表記の方が分かりやすいのではないか。

○井上委員長

「指摘がなかった」という言葉で良いか。

○小野寺委員

「指摘事項なし」が良いのではないか。

○事務局

了。

○井上委員長

それでは、11ページの「大学連携調査研究助成事業」以降の事業について、事務局から説明願いたい。

【事務局から議事（１）を説明】

資料１ 平成２９年度行政評価外部評価結果（Ｐ１１～Ｐ１４）

○井上委員長

事務局から４事業について、説明いただいた。

何か気が付いた点があれば発言願う。

○武岡委員

改めて評価表を見ると、「大学連携調査研究助成事業」は、「指標設定の妥当性」について「なし」となっているが、「活動指標」は「補助金額」、「成果指標」は「補助事業本数」となっている。「補助金事業本数」も「活動指標」ではないか。外部評価委員会において、その指摘はあったのではないか。

この事業は、補助をすること自体が目的・成果ではなく、補助事業を行い、調査研究してもらうことにより、地域活性化や江別市の問題解決につなげることが目的である。事業の目的に沿った指標を検討していただきたい。

○事務局

武岡委員の指摘についてだが、現在「成果指標１」に「補助事業本数」とあるが、「補助事業申請件数」も併せて「成果指標２」に加えることを結果に反映させていこうと考えている。

○井上委員長

改めて見直すと、客観的に見える部分も出てくるため、気付いた点があれば、事務局に連絡をいただくと有り難い。

○菅原委員

「成果指標」、「活動指標」は、毎年数字で表しているが、数字で出にくい部分も多くある。「大学連携調査研究助成事業」に関しても「補助金額」や「申請本数」はあくまでも活動指標である。

その結果、求めている目的に対しての数字ではないものとなっているが、この事業に限らず、このような事業は多いと思う。必ず数字で出す必要性があるのかをもう一度検討していただきたい。数字で示すことで一見分かりやすく見えるが、逆に混乱しやすいように思う。

○井上委員長

この件は３年間外部評価を行ってきて、今後の内部評価の時にどのように評価表を見直ししていくのかというところの意見とする。

指標設定のあり方、記載方法についても、総括で加えていく項目になると思う。

それでは、１５ページの「えべつシティプロモーション事業」以降の事業について、事務局から説明願いたい。

【事務局から議事（１）を説明】

資料１ 平成２９年度行政評価外部評価結果（Ｐ１５～Ｐ１７）

○井上委員長

事務局から３事業について説明いただいた。

書面、内部評価を基に指摘をさせていただき、外部評価の目的を網羅したと思っているが、「ふるさと納税普及促進事業」などは、市民は知識としてあるが、消化しきれていない部分もある。各委員はどのように考えているか。

前委員会で武岡委員が指摘をし、金額的な増減まで見えてきた。「意見・提言」が「なし」になっているが、記載するとしたらどのようなことを記載したらよいか。

○小原委員

市民が「この事業は何のために行っているのか」という見方をしてしまうのではないかと思う。もう少し工夫し、分かりやすく納得する表記は出来ないかと疑問に思う。言おうとしていることは、「江別市をもっと知ってもらおう」、「理解してくれる人を更に増やそう」という意図である。

○井上委員長

市民の視点で見た場合、「江別市はこれで良いのか」と腑に落ちない点が残るのではないかと思う。

外部評価として、どのような書き方で提言を載せると良いか意見がほしい。

○武岡委員

ふるさと納税では、入ってくる額と出ていく額があるので、両方を把握できることが大切だと思い、ヒアリングで質問させてもらった。評価表では、江別市にふるさと納税をした人数はわかるが、江別市民で他自治体にふるさと納税をした人の数はわからない。また、金額については、入ってきた額も出ていった額もわからない。

返礼品競争に乗らないと他自治体に流出してしまうため、江別市では行わざるを得ないところがある。ふるさと納税は罪作りの制度だと思う。

○井上委員長

行政としての知恵を総動員し、なるべくPRがしっかりでき、かつ納税額が増える方法を検討してもらえないか。

○菅原委員

戦略に「シティプロモート」と記載があるので、江別市のPRが前提であることは読み取れると思うが、「目的」に「納税」しか記載がないため、「江別市を知ってもらおう」など記載してあった方が、読む側としては単に納税額だけではないことが分かりやすく、これだけの事業費をかけている甲斐があるのではないかと思う。

○井上委員長

評価表にきめ細かく内容を記載する必要があるが、限界があり、読み取り側がいろいろな角度で読み取っている。

主たる目的・対象をはっきりすることは評価表で重要だと思うが、読み取れない部分をどの項目に記載するのかということになる。その場合、「事業を取り巻く環境変化」に書き込まれると理解度が深まってくる。

市民感覚的に読み取れない部分をどのように読み取ってもらうかを、3年間を通して分かったように、評価表の記載方法の見直しが必要だと思うため、検討課題ではないか。業務を

していないのではなく、より良い業務をするためにどう理解を深めてもらえるか、評価表はそのためにあるという認識をもってほしいということだと思う。

これをもって、全11事業について確認をいただいたが、全体をとおして何かあれば発言願う。

【質疑なし】

○井上委員長

武岡委員が指摘したように全体の総括となると、別途考え、意見を出していきたいと思うが、平成29年度行政評価外部評価結果の内容については、千里副委員長と事務局において検討、整理していきたいと思う。

(2) 平成28年度行政評価外部評価結果の改善状況報告について

○井上委員長

それでは、議事(2)の平成28年度行政評価外部評価結果の改善状況報告について、事務局からご説明いただきたい。

【事務局から議事(2)を説明】

資料2 平成28年度行政評価外部評価結果の改善状況報告について

○井上委員長

指摘しても改善されていない事業が出てきたのは残念である。

平成28年度の結果がそうならば、平成29年度の指摘をしても同じように改善できない事業も出てくる。そうすると、指摘をする意味がなくなってしまう。

改善していく時にどのような方法があるのかを、事務局も含め全体で考えていかなければならない。代替案が「見つからない」との回答ではなく、「このような代替案を考えた」などはないのか。「自分たちはこれが妥当だと思う」、「これでは不十分だから更に検討を重ねる」などの前向きな返事がなく、とても残念である。

○事務局

井上委員長の指摘どおり、所管課でも指摘事項については大部改善しているが、検討した報告の仕方が後ろ向きな表現で記載している部分もあった。改善出来ていない部分については、引き続き良い指標がないかなどを検討していくため、ご理解いただきたい。

○井上委員長

今後も事務局として注視していただきたい。

江別市をPRし、「人口増にしていきたい」、「若者に移住してもらいたい」となると、「江別産農畜産物ブランディング事業」というのは、特に江別市をPRし、活性化していくことになる。しかし、現段階できちんと伝えられていない。伝えられなければ、もちろん呼ぶことが出来ない。そのようなジレンマがあると思うので、解消できるように指導することも必要だと思う。

それでは、平成28年度行政評価外部評価結果の改善状況報告について、概ね改善が図られたということで、今後も更に検討が必要なものに関しては、注視していただきたい。

(3) その他

○井上委員長

各委員から何かあれば発言いただきたい。

【各委員意見なし】

3 その他

○井上委員長

次第3その他について、事務局から何かあれば説明いただきたい。

○事務局

次回第6回行政評価外部評価委員会では、平成27年度から開始した「えべつ未来戦略」の行政評価外部評価の総括となる。委員長・副委員長と協議のうえ、3年間の総括の報告案を示したいと思っている。

○井上委員長

3年間、各委員に検討いただいた。

事務局からの説明のとおり、総括の報告案をしっかりとめていきたいと思う。3年間が充実した内容になるように記載する必要がある、記載しておいてほしいことがあれば、意見をいただきたい。

一通り案をまとめたが、3年間の総括にあたり感想などがあれば、各委員より一言ずつご発言願う。

小野寺委員どうか。

○小野寺委員

平成29年度のまとめについては特にはないが、3年間参加させていただき、委員として一からスタートし、学んでいく中で、今年になり気が付いた点も多くあった。

「えべつ未来戦略」の、内容を細かく事業ごとに見ていたが、事務局から報告があった改善事項についても、おそらく前委員会でも様々な指摘があったと思う。

その引継ぎが出来ていないために、次の委員会に分からない人が入る場合、内容が重複している部分もあると思う。

担当課と委員用の書式には、今までの積み重ねの情報が入っていることが、委員会に参加させていただくうえで、重要なことだと思う。

また、評価表を見て、担当課評価(5)「現状の成果を落とさずにコスト(予算や所要時間)を削減する方法はありませんか(効率性)」と記載があり、担当課は予算を減らされた場合、事業に支障が出るために、「ない」と記載するしかない様式になっており、もっとPDCAサイクルを意識し、次のアクションにつなげていけるような内容が記載できる様式に変えていかなければ、「えべつ未来戦略」というものを主体とするひとつひとつの計画の見直しという部分においては、後ろ向きなものになってしまうと感じた。そのような部分も含めて、3年間の総括については、井上委員長に相談したいと思う。

○井上委員長

小原委員はどうか。

○小原委員

私は2年間だったが、一番重要なのは、「指標」をどう設定するのかということである。評価表の「指標」によって違いがありすぎると思う。きちんとした指標が設定されていれば、担当課が違って統一された評価が出されてくるのではないか。

特に、「成果指標」が単純な数字だけではなく、「こういうことをやりたい」という目標にする。「成果として残していきたい」という努力目標を設定出来るものだと分かりやすくなる。

数字で表すことが極めて適当な場合もある。しかし、ほとんどのところは指摘されており、「それが指標なのか」というものがあちこちにある。もう少し徹底した議論を行い、「えべつ未来戦略」をどの部分でも同じように向かっていけるよう事務局で作っていただくと、違った形が出てくるのではないかと思う。

○井上委員長

武岡委員はどうか。

○武岡委員

外部評価委員は江別市が初めてで、大変勉強させていただき、感謝している。

委員となり分かったことは、市職員は真面目に日々の業務に取り組んでいるが、その業務をわかりやすく外部者に説明することが重視されていないということだ。また、内部評価はほぼ型が出来上がっており、前年度の評価表を踏襲する形でやってきている。今までの評価表を変えることに対する遠慮もあるかもしれないし、また変えるのが面倒ということもあるだろう。このようなやり方は非常にもったいない。外部評価を通じて、職員の意識を変える、気付きにつなげられるような活用方法をしていけないかと思っている。

外部評価委員会では、まず所管課の評価表を事務局が説明する。そして委員会での指摘事項を事務局が所管課に伝え、所管課からの回答を事務局が委員会で伝える。それからヒアリング対象にするか、書面照会にするかを決める。事務局がワンクッションおくことに違和感を感じてきた。外部評価を一種の研修の機会として考え、最初から所管課が説明することにしようか。そうすれば、より多くの事業をヒアリングすることができる。

外部評価の対象になっても、指摘したことを実際に評価表にどう反映するかは1年後にならないとわからない。これも、方法を変えて、その年度内に評価表を修正できないものかと以前から感じている。1年間の猶予があっても、日々の仕事に追われて先延ばしにするだけだと思う。

○井上委員長

菅原委員はどうか。

○菅原委員

「目的」とそれに対しての「手段」、「結果」を分かりやすく表記してほしい。

また、数字では結果を判断しにくいので、「代替指標」として数字を記載しているが、目的に対する結果は本当に数字ではとれないのか、もう少し努力するべきところはないのかを検討し、その結果として努力したが代替指標として、現段階ではこれが結果に対して一番近

い数字だということの説明を入れると読んだ際に分かりやすいと思う。

○井上委員長

「戦略」という言葉を安易に使用しているように思う。

計画を行う際は、前年度に行った事業を見ながら今年度どうするかを、プランニングしているはずである。担当者はより良いもの行いたいと思うが、それを共有しているのか。

共有していた場合、抜け落ちた部分に対してもっと調査・分析を行わないのか。行政の間としてのプライドをもって努力することを、山下委員は費用対効果と言っていたが、プライドをもって江別市を引っ張っていくという気概がどこかで見えてほしい。

結果論を評価すること、プランニングに関わる委員会がいくつもある。プランニングに関わる委員会で行っている事業の評価はどうであったかを伝えてほしい。

プランニングは長期展望しながら意見を委員会で言うが、実際に事業として地に足がついた事業展開が出来ているかは担当部局でしか分からない。そのギャップを埋めているのか。市民と行政が両輪となって動くのだと思うが、ちぐはぐに動いていると今回も強く感じた。

総括の中に本日欠席している千里副委員長と山下委員の意見も聞きながら、総括のための報告案を練るので、意見があったらいただきたい。

その他、事務局から事務連絡等はあるか。

【事務連絡】

4 閉会